

未来に向かって その4

昨日の文章を踏まえ、今年の東大の国語第一問解答は、こんなところでしょうか。

身分制度が打倒されて近代になり、不平等が緩和されたにもかかわらず、さらなる平等化の必要が叫ばれるのは、小さな格差に悩む人間が、自らの劣等性を否認するための手立てとしての防衛反応である。

自由に選択した人生だから自己責任が問われるのではなく、格差を正当化する必要があるから、人間は自由だと社会が宣言する。努力しない者の不幸は、自業自得だと宣告する。

近代は人間に自由と平等をもたらしたのではなく、不平等を隠蔽し、正当化する論理を変えたのである。

傍線部はどういうことか。本文全体の趣旨を踏まえて、100字以上120字以内で書きなさい。

解答

身分制社会の前近代では、身分制の根拠を神や自然など共同体の外部に求め、それによる社会秩序の安定が説かれたのに対し、近代では、自由と平等の実現を標榜しつつも、格差は個人の能力差がもたらすという論理のもとに不平等や格差が正当化されてきたこと。(119字)

ポイント

- 1 前近代と近代の対比が語られているか。
- 2 社会システムの安定を図る論理が書かれているか。
- 3 近代の特徴として、不平等や格差の正当化が正しくとらえられているか。

メリトクラシーが抱く近代の人間疎外の理論を正しくとらえてほしいと思います。